

# 強度行動障害実践事例報告

---

## 物壊し 1

### 本人の状況

養護学校中学部。療育手帳 A1。こだわりが強く、こだわりから他害、破壊、排泄、多動の不適應行動につながる。場面が変わる際に混乱しやすく、他害、破壊、多動などの行動を制止されたり、他利用者の不穏な声に反応したりして不安定になることが多い。精神科薬服用。

(旧)強度行動障害判定基準(平成 23 年 3 月)

他害(5 点) こだわり(5 点) 器物破損(3 点) 排泄(5 点) 多動(5 点) 合計 23 点

### 問題とされた行動

「強迫的な衣類・寝具破き」落ち着いていたのに突然パニック、他害、破壊行為に及ぶこともあった。

### 取り組み経過

#### ・データ収集

不安定行動(他害・こだわり・破壊・排尿(便)の失敗・大泣き)の頻度、時間帯を記録した。

記録をもとに不安定行動が多発する時間とその要因について分析を行った。

#### ・状況の分析

破壊行動の多くは、活動が決められていない(やることのない)自由時間に発生している。特に夕方(下校後~夕食)と学校が休みの日に多いことが確認され、やることのないときはデイルームの決まったルートを歩き回っている(多動)ことが多い。学校があると分かると嬉しそうな様子がある。

本人の好む活動を用意し空き時間のスケジュールリングが必要か?

学校の有無が分からず混乱があるか?

DVD、本などは飽きると壊して終了とする様子が伺えた。

自身にとって不要となった物を破壊ではなく他の形で表現する方法は何か?

居室で過ごすように促しても余暇を行わずに布団を出そうとする(破いてしまう)こともあった。

居室を寝るための場所としか認識していないのか?(現在寝る時間ではない いまは使わない布団 不用な物と捉えたのか?)

自分なり(思い込み)の予定で過ごそうとする様子が見られる(他者の活動の模倣が多い)。場面転換、イレギュラーが苦手な混乱しやすい。

活動の見通しがたっていない。さらに、周囲の状況から誤った(他児の)情報を得て自身の予定を立てているのか?

音に敏感な様子があり特定の嫌いな音(泣き声など)が原因と推察されるパニック、他害が観察されている。また、デイルームで過ごしている際は自分の動線に他者が入ると攻撃が発生している。

不快な刺激(聴覚、視覚など)を排除した環境が必要?

#### ・対応策

当面の破壊行為防止のために衣類や寝具が目につかないように配慮し、居室には生活上の必要最低限なものだけを置くようにした。

居室は寝るためだけの場所ではないことを伝えるために、居室のレイアウトを変更し、寝る場所と余暇の場所を仕切った（図1）。また、居室内で過ごすための課題と余暇を用意し、スケジュールを居室に置いて確認できるようにした（図2）。

余暇の広がりや課題種の増加を図るため夕方、休日を中心に評価、試行の場を設定した。嫌な課題、余暇については本人の拒否のサイン（バイバイ）を確認し、無理に取り組むよう促すのではなく、支援者に手渡すように促した。



図1 居室の様子

	登校日	休日
起床時		
午前		
午後・下校後		
就床時		

本人が気にしていると思われる学校の有無をスケジュールで明確に伝える工夫をした（学校がある日は「学校カード」、休日は「園のカード」を起床時に提示する図2）。

放尿場所（居室サッシ、ダイルーム）に「×」マークを掲示し禁止を伝える。

図2 居室に掲示したスケジュール（パートデイ 写真）

## ・取組結果

居室のレイアウトを変更し寝る場所と活動の場所を仕切ったことで、居室内で課題に集中できる（居室で過ごせる）時間が増えた。

試行、評価の結果、本児が気に入った複数のDVD、課題を余暇時間に組み込んだ。ローテーションを決めて本児に提供したところイレギュラーな提示に対しては拒否が見られたが破壊は減少した。

他児と関わる（刺激を受ける）機会が減ったことで物理的な他害機会が減少しただけではなく、不快な刺激が原因と推察されたイライラやパニックも減った。また、日常的に険しい表情の時間も減った。

居室がスケジュール確認の場として有効に機能し始めてから全般的に落ち着いて過ごすことができるようになった（図3）。

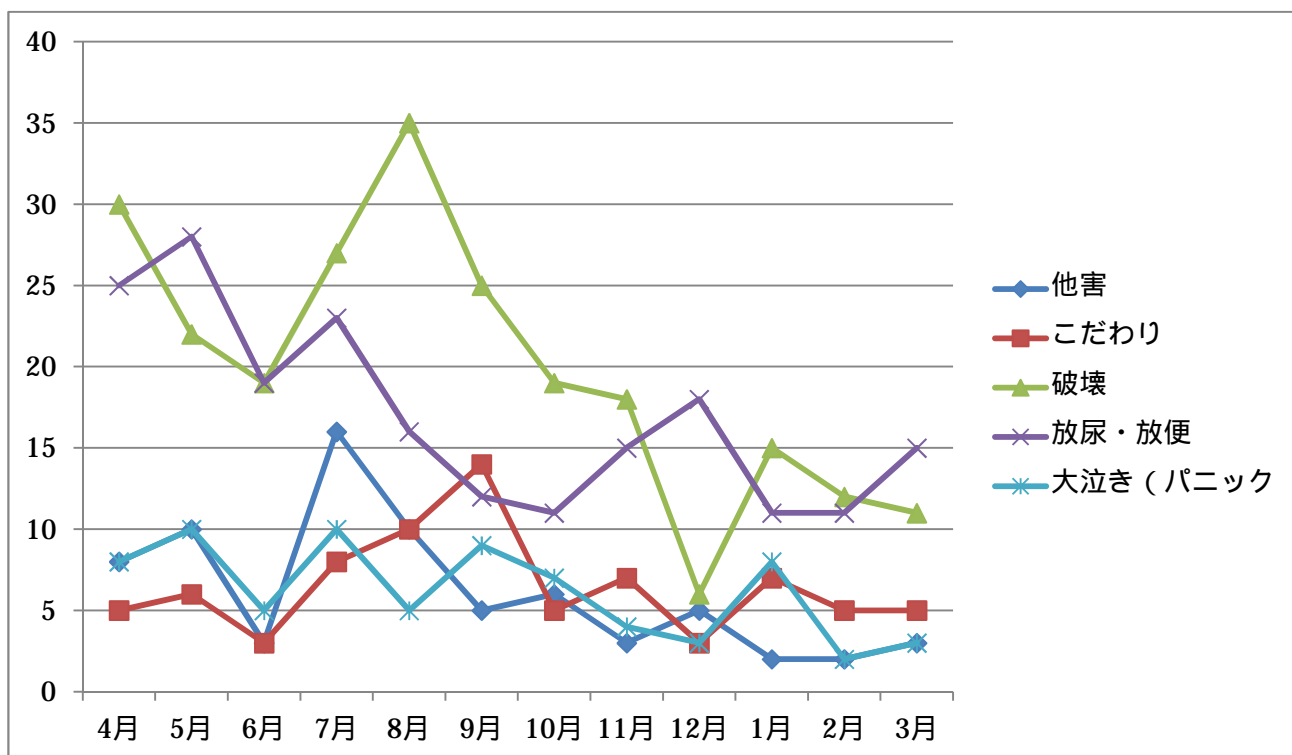


図3 課題となる行動の変化

掲載日 平成28年3月2日

この文書の所管所属はひばりが丘学園です。